



特定非営利活動法人

平成 18 年春号 NO.29



<http://nepai-mika.jp>

mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成 18 年 3 月 10 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



“平成 18 年初頭にあって”

N.P.O 法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

昨年晩秋、ネパール教育支援の旅が無事終了しました。心配された治安上の問題を全く感じないまま、二校の開校式や継続支援にのぞめたことは、帰国してホッとしているところです。やはり、9 月に中間調査をして地ならしをしっかりといただいた上に訪問ができたことが、何より心配感もなく安心して旅が続けられたことではないかと思います。

さて、今回のたびでも、実に多くの要望が寄せられており、ルンビニでは教育施設の支援、タンセンでは図書備品の支援、カトマンドウでは教育機器の支援要請であり、要望書をみる限り、多岐にわたっているとビックリするところです。できる事、できない事をしっかり整理し直して行わなければならないと思います。

(1) 政治とのかかわりが深いネパールの政情の中で、現地 N.G.O を設立し、政府の認証を受けた上で、その掌握された保護下において送金等の活動を行う事が必要との意見があります。しかしながら、理事長としては、政治状況、治安状況が不安定の中において、当面、「手から手へ」できるだけ支援者のお金や物品等をそっくり届ける事をモットーにしている当会発足時の方針を踏襲し、私達の会では、現在の支援体制を継続して行う事がよいのではかと考えます。但し、ヌルプ・ラマ氏を頂点とする現地 N.G.O を 10 人程でたちあげ、個人だけでなく、多くの人がネパール現地において活動し、ミカの会活動を支えてくれる方を増やす組織作りに努める（今回の旅で、ラマ氏に申し入れてあります）。政府認証の機関には、活動困難とならない限りは属さない。（尚、2～3000 団体あるネパール支援団体のうち、認証されている団体は 15～20 団体という情報があります。私共も、その現状に当面ならいたいと考えています。）



(2) 現状の活動を継続します。ルンビニにおいては、治安の許す限り、校舎建設を行います。但し、毎年 1 校以上という現状からは、「ゆっくり」を心がけ、拙速とならぬようペースダウンもやむなしとします。日本における援助、助成交付団体、機関との接触を密にしながら申請をし、あらゆる機会を通して支援金品を得よう努めます。

ルンビニ地方の教育現状からも、全くハード面の建設はしないとの方針は「子ども達の顔」をうかべてみるに、しのびなく、できる範囲の中で行うこととします。但し、次の 2 点については、当会の建設条件とします。



- ①学校及び関係者が地域の就学率向上に努力をする。カースト制による差別や男女の性差をのりこえて就学率向上に努める。
- ②支援された校舎等のみではなく、学校施設及び校庭全般の美化に努め、校内にゴミを捨てないなど、美化活動や生活指導に力を注ぐこと、を誓約される村落住民や教育関係者のいる所を建設優先順位とする。
- ③村や学校運営委員会の努力や熱意が感ぜられるところで、建設費以外の住民負担部分と考えられる教育費に関連する所は、当面支援しない事を原則とし、地域の自助努力を待つ。但し、やむをえないと判断される事由（例えば災害等）が生じた場合は、理事会、例会等にはかり、柔軟かつ迅速に対処する。
- ④10 周年事業を契機に、教育内容の充実や教育指導力の向上に努め、支援する体制を今後作れるようにする。

ルンビニ公園内の事務所、日本山妙法寺など現地活動法人との連携の道を今後さらに探ると共に、この地域に深くかわわりを持つ援助団体との連携（調布妙法院や佛子の会など）を模索し、効果的支援に努めましょう。

タンセンにおいては、図書・備品支援だけでなく「交流」をテーマに、さまざまな面から、より深い親睦ができるように努め、大学関係者だけではなく、より広範な教育関係者との親睦を深めます。

カトマンドウにおいては、パドマ・カニヤ女子校支援を継続すると共に、カトマンドウ日本語学校関係者との交流も深め、より親睦に心がけていきたいと考えています。日本語学院 41 周年記念事業については、学校講師側の要望にもとずいて善処し対応します。

平成 18 年、援助をいただいている会員や賛助会員、その他の支援者、支援会社、機関との連携をもっと密接にしたいと思います。

多忙をついに前に押し出しがちですが、是非、関心をもつ皆様の「自から」の活動に期待したいものです。

「母校でボランティア講演をしてきました」

青沼 義信

私の郷里（宮城県石巻市）の中学校同窓会は、同窓生の親睦のほかに、母校への後援事業を行なう事になっていますが、学校が一昨年、宮城県社会福祉協議会より「福祉教育・ボランティア学習推進協力事業」の協力校として指定を受けたことから、同窓会後援事業の一環として、ボランティアについての講演をして欲しいとの要請があり、現在の中学校制度第一回入学生であるという理由で私が指名され、1月13日に講演をしてきました。

学校ではボランティア学習として「介護のボランティア」「クリーンアップ登校」などを実施しているので、現在私の関わっている自然保護活動や知的障害者に対するボランティア活動なども取り入れて話してほしいとの学校からの要望もあり、ミカの会のネパールに対する教育支援活動のプレゼンテーションと共に1時間半の長時間講演をしてきました。

自然保護活動については私が入会している野津田・雑木林の会での「植生や小動物・昆虫などの保護活動、特に外来種への対策活動や、人間の自然破壊がもたらしている事例と我々のできる事、すべき事など」知的障害者ボランティア活動については、「大賀繻絲綿で支援をしている作業ボランティアを通して見た、ハンディキャップのある人々への健常者としてのあるべき姿、それは社会的弱者に対するもので、地球的に見れば、後進国に対する先進国の対応に共通するものがある」

ミカの会の活動は「世界で最貧国に数えられ非識字率が世界第3位とされているネパールに不足している教室の建設をはじめとした子どもたちの教育環境の支援、これによる就学率の向上は、ひいては生活の向上に資する事であると、ネパール国の紹介や子どもたちの生活ぶりなどのプレゼンテーションと共に具体的活動内容を紹介」が今回の主要内容でした。

東京にはボランティア団体が非常に多く、子どもたちがボランティアに接する機会も多いようですが、地方都市の子どもたちには、赤十字やユニセフなどの活動を通じたものだけでボランティアを理解しているようで、民間団体であるミカの会が、ネパールに10校も校舎を建築し贈っているという事が信じられないという反応が返ってきました。

講演の最後に「現在の皆さんに大切なのは勉強です。中学生として学業に支障の無い範囲で社会に貢献できるといった事、それが小さい事でも良いから継続して実行してみてください。」

それが皆さんのボランティア活動です」「しばらく振りで石巻に来ましたが、石巻の商店街は、平日なのにシャッターの下りている店が多く見られ、シャッター通りと言われそうな状況にあるように思われた。

若い皆さんのアイデアで街の活性化を図ってみては！」の言葉で締めくくりましたが、私の話がどれだけ理解されたか、今後もコンタクトをとり母校との交流をはかっていきたいと思っています。

出席者は全校生徒327名と教師で、会場は学校で最も広い体育館でしたが、暖房設備が無くスライドショー準備の時は震えあがってしまいましたが、講演のときは暖房用バーナー6台がフル活動でなんとか風邪をひかずにすみました。

久しぶりの冬の郷里は、空っ風が身体に突き刺さるようで、五十数年前には住んでいたのに“こんなに寒い所だったのか”と改めて東北の冬の寒さを実感した講演会でした。



高原 坦 顧問 追悼の記

坂 育夫

高原 坦顧問の死を加藤副理事長より連絡を頂いたのは12月8日だった。

彼との出会いは25年以上さかのぼる。当時は古本屋の同期生としてであったが、僕は十年を待たずして廃業し、かれは瞬く間に町田駅前に進出、やがて横浜や都内に何軒も支店を開店させる発展ぶりであった。

僕はその後もなにかと彼に無理なお願いをした。成功者として後ろめたいのかと思うほど、陽子夫人ともどもよくひき受けてくれた。障害を持つ青年たちとの絵画展や、ネパールの曼陀羅展などである。

第1回ネパール教育支援の旅が始まり、高原さんも副団長としてネパールに同行された。バクタブルの街では子供達がおみやげ品を売りに群がっている。足早にみんなで通りすぎるのだが、高原さんがまったくの言い値で、布サイフを大量に買ってしまう。「高すぎるよ」と僕が文句を言うと「いやいや日本の悪徳商人としては、がんばって働く少女のお役にたてればいいんです。」といっこうに気にしないのである。

すると帰路にはその娘と母親が高原さんに頂きすぎたとお金を返しにきた。もちろん受け取らずに別の商品をいただいていたようだが、ネパールのみやげ品の売り買いでこんな風景に出会ったのは、僕は初めてであり感動した。

その後の4年間、高原さんには副会長として夢の記の印刷でお世話になったり。ラマ君の訪日のたびに日本語の勉強をかねた余力の活動のお願い等もした。

今にして思えば、糖尿病と大型スーパー古本屋との戦いと大変な時期でもあったのだろう。

そして白内障という重病にみまわれ、ミカの会との関係も途絶えていたが、会うたびに「坂さんの腎臓でいいから、一つもらえると助かるんだが。」と驚かされた。ラマ君との地球博の旅行を心待ちにしていたのを思い出します。その時の発作は会員の的確な行動で事なきを得たのでした。

そんな思いにふけりながら、僕は通夜のために自宅に戻った。当時は僕も肝臓の調子を悪くしていてJICAの審査にも不合格となり落ち込んでいた。重たい喪服のそでを通したとき、突然高原さんの野太い声を感じた。「坂さんは私の分まで生きればよいよ。」と聞こえたのである。僕は自分が健康になれる確信を得た。

お通夜もお葬式も密葬らしく、お身内とミカの会の人達が目につく内輪の式であった。僕は恥ずかしいほど涙が出て困った。どうか高原さん。もう何も気にしないでバクタブルの空にでも行って、大きくなったはずのみやげ売りの娘さんでも見守ってください。

「第9次教育支援の旅報告」

事務局長 大谷 安宏

ネパール教育支援の旅は例年2～3月に実施していたが、現地の情勢不安による建設支援事業の遅れと安全を鑑み、延期していたが全行程にわたり全く不安を感じることなく、ほぼ計画通りに第9次ネパール教育支援の旅により、二校の建設支援と図書支援の成果の確認をし、また、各地で多くの人々との親交を深める有意義な旅となった。

今回の支援の旅では新しい試みを幾つか取り入れた。バンコク泊のカトマンドウ経由ルンビニ入り、タンセン～ポカラ間のバス移動、ポカラ～カトマンドウにマウンテンフライトの組み込み。

タンセンの合同図書支援贈呈式を目録による会員から贈呈、ルンビニの2校の落成贈呈式では永年贈呈式に立ち会いながら経験のなかった会員によるテーブルカットなど、日ごろの活動の成果を実感出来たと喜ばれた。

携帯プリンターによる写真の寄贈とルンビニ各校の先生の顔写真と氏名リスト、留守部隊青沼理事とのEメール交信による情報交換、名入りのケーキの誕生パーティー、ホテル厨房を借りての特別メニューの調理など、皆さんの協力を頂き今後に生かせる貴重な体験もできた。

会として当初の目的を果たすことの出来たのも、情勢不安の中での校舎建設や図書支援の段取りに加え、個人的にも課題の多い中、誠実に事業の推進に尽力頂いたヌルブ・ラマ氏に改めて感謝したい。

10周年を迎える節目の年として、国内のイベントに加えて、ルンビニ地区でのイベントの開催に向けて多くの会員からの積極的なアイディアの提案を期待します。



期 間：2005年11月11日(金)～11月21日(月)11日間

参加者： 齋藤 謹也 今村 旭 加藤 誠一
齋藤 孝 大塚 正男 小泉 光 和田 寧人
大谷 安宏 大石 トキ 沼野 和子 和田 泰子
濱崎 ヤスエ 中野 千恵子 松浦 陽子 佐々木 富子
木幡 久美子 市村 梨恵

※ 大石、和田夫妻 延滞25日帰国、木幡さん 延滞30日帰国



第9次教育支援の旅日程

11月11日(金)

町田～成田空港～バンコク(アジアエアポートH)

集合場所町田バスセンターに全員余裕の集合。齋藤美智子さん、青沼氏の見送りで5:50発、空港着7:30。空港待合せの市村さんと合流。定刻フライト、豪雨によりバンコク到着30分遅れ。道路は水浸し。愉快的出迎えガイドトントン氏とホテルへ。夕食時誕生日の今村氏のミニパーティー。バザール見学、参考品としてミサンガ購入。

11月12日(土)

バンコク～カトマンドウ～バイラワ～ルンビニ(法華H)

8:00 ホテル発。定刻フライトカトマンドウ着、ゴビンタ、ラマ氏の出迎え。車にて国内空港移動。

滑走路からの雪山に大歓声。1時間半遅れてのフライトはラマ氏を含め定員18人のピッタリ。小さめの古いバスでホテル着。ルンビニ公園観光は延期。

入浴、夕食後四つ葉会布袋、テニスボール、鉛筆、ポシュット、ノート、アメなど仕分け作業。長時間の移動で皆さん疲れ気味。

11月13日(日)

終日ルンビニ(法華H)

ルンビニ公園を散策見学後朝食。

8:30 白く仕上がった外装のシリ・アマリ小学校贈呈式。

挨拶の学校理事長、校長、教員を撮影、2枚プリント1枚に役職、名前の記載依頼回収。

次回訪問から先生方を名前で挨拶可能。プリントの加藤さん、通訳和田さん大活躍。

携帯プリンター大いに機能発揮。鍵の引渡し、サッカーボール、プレゼント配布。

10:00 シリ・マズワニ高校贈呈式。外観仕上げは中学校と統一色。初の2階建て立派。

小中校生の歓迎出迎え、元村長、中学、小学校長挨拶。サッカーボール、プレゼント配布。永年贈呈式に立会いながらテーブルカットの経験のない会員の初体験にニッコリ。

中学生全員と記念撮影。新規支援要請書を受ける。

ホテル昼食後、シリ・アディアリ小学校訪問サッカーボール、テニスボール、エンピツ配布。

道路との境にレンガの壁が作られているが、いつもの長閑な風景。隣の民家を視察。

シリ・スندیー小学校 中間調査時朱書きと汚れは真っ白に仕上がり。実施に当ってラマ氏のご苦勞の成果。

歓迎式にて校舎建設資金提供者の大石さんを「スندیーの母」と賞賛の校長挨拶。大石、和田さんご主人挨拶。

近隣校の建設支援要請を受ける。

シリ・シリ・ラム小学校 時間外のため教員、生徒不在。10周年記念運動会会場として活用可能であること確認。

新規建設要請校視察 時間外で生徒不在。生徒数150人 鋼鉄アングルによる1棟と古いレンガ造り。他校に比べ余裕が感じられる。

11月14日(月)

ルンビニ～タンセン(シリナガルH)

中間調査で視察のシリ・マヤデビー小学校(ひろしま・祈りの石へ助成申請済)を理事長、副理事長、事務局で道が狭く入れないため、バスからジープに乗換え訪問。

早朝にて生徒僅か、教師不在。中学へ通う女子学生達はなかなか好印象。

シリ・グルワニマイ小学校。四つ葉会要請の図書館建設提案を校長に説明。中間調査時の建設場所を校舎右手に学校用地に建設承認。国道からの導入路は現在の幅を条件に修復可。

ヤナトラハ校 訪問後タンセンへ移動。プトワールナグロレストランにて昼食。
タンセン・シリナガルホテル夕食に今村シェフによる「なめこの味噌汁」に感激。「美味しい」
食後合同図書贈呈式目録作成作業。

11月15日(火)

終日タンセン (シリナガル H)

トリヴァン大学理系校視察。10:00 文系校会議室にて合同図書贈呈式。既に各校には書籍は送付済み、加藤副理事長の司会により目録と写真まじり提供の写真を各校に理事長初め代表者より贈呈。

午後、セン小学校訪問、サッカーボール、テニスボール寄贈。生徒等とドッチボールで交流。モホン女子校訪問 近郊の専門校より図書支援要請を受ける。



ジャナタ小中高校 (JVT) 訪問 連絡ミスで合同図書贈呈式欠席のため会議室で贈呈式。実験室を視察、校長不在。
市内観光、ショッピング。
ナグロレストランで教授、校長等 18 名合せて 36 名の懇親会。今までにない盛り上がり。

11月16日(水)

タンセン～ポカラ (H カンティプール)

8:00 ホテル発。バス移動。ポカラへの途中 GYAN JYOTI ENGLISH 校にて小休止の際、教員から過去に支援の意向に口座を開設したが動きがなく善処を要請される。
ポカラまで約5時間。ダビットホール観光。カンティプールH。ペア湖をボート観光、ショッピング。夕食チベタン料理。

11月17日(木)

ポカラ～カトマンドゥ～ナガルコット (クラブヒマラヤ)

早朝、サランコットへ。雲多く山見えず、待つうちに全容を現し安堵。木幡さん体調不良。
10:00 チャーター便でフライト。エベレスト近くでUターンの快適なヒマラヤ観光でカトマンドゥへ。ジャンモさん合流ボダナート観光。

パドゥマ・カニヤ女子校訪問、今年度からミカの会支援協力を含めた雪山童子奨学金授与。
ナガルコットクラブヒマラヤにて 11 月誕生日の今村、加藤、中野さんバースディケーキとワインで祝う。大石、今村、中野さんのレッスン・ヒュー・リーリーの踊りに隣席のドイツ人を巻き込み国際親善。



11月18日(金)

ナガルコット～バクタプール～パタン～カトマンドゥ (H バイシャリ)
残念ながら濃い霧。桜と菜の花の路をミニ散策。バクタプール観光。美術館内レストランで昼食、パタン観光。タメル観光ショッピング。

H バイシャリにトリヴァン大学イラム校 (生徒 5 千人) 地理担当教授 (タンセン校 13 年勤務) が訪れ図書支援の要請を受ける。木幡さん相変わらず不調。

11月19日(土)

終日カトマンドゥ (H バイシャリ)

午前中カトマンドゥ観光。スワヤンプナート、王宮広場。カトマンドゥ日本語学院視察。民芸品購入、ショッピングなど自由行動。夕食ネパール料理と舞踊。



11月20日(日)

カトマンドゥ～バンコク～

早朝ミーティング。空港に向かう途中パシュパティナート観光。大石さん、和田夫妻と別れる。
空港はスリザナさんの対応。若干の遅れのフライト、バンコクで約 5 時間待ち成田へ定刻フライト。

11月21日(月)

～成田空港～町田

定刻 7:30 着。市村さんと解散。湾岸ルート事故により海ほたる経由で町田へ。

11:30 町田着 青沼さん出向えを受け、解散。

「3年ぶりのネパール滞在」

佐藤 富美子

約3年ぶりのネパール滞在。

今回のネパール滞在の目的はルンビニを訪れ、グルワニマイ小学校の授業の様子や学校生活の様子をビデオに撮ること。そして村の生活を知り、大学院の研究の計画の土台となるデータを集めることなどでした。1月4日には新年会でミカの会の皆さんに盛大に送り出して頂きました。しかしながら今回はルンビニを訪れることが出来ないままの帰国となりました。

理事の皆さんが用意してくれたルンビニの先生方の写真、会員証、日本大使館への文書なども使わないままの帰国となり、残念の一言です。ルンビニに行くことを断念した理由は治安が予想以上に不安定だったからです。以下、私が滞在していた間のネパールの様子等について簡単ではありますがご報告したいと思います。

今回は初めてバンコク経由でネパール入りしました。今回ネパールに入るのに、ロイヤルネパール航空の直行便か、それともタイ航空バンコク経由か迷いました。ロイヤルネパールだと45日間Fix、タイ航空だと3ヶ月Openのチケット。金額は大して変わらないが今回は帰国日をいつにするかで悩みに悩み、なかなか決められず結局タイ航空のOpenチケットを選択しました。この選択がのちのち吉と出るなんてその時は思いませんでした・・・。

私がネパールに入国したのは2006年1月9日、その7日前の1月2日にはマオイストが停戦破棄を発表。その時すでに2月8日に予定されていた地方選挙に向け、マオイストが選挙妨害計画として1月26日～2月4日までを特別行動、2月5日～11日までゼネスト（全国バンダ）を行うと声明を発表していました。選挙に向けて徐々に治安の悪化が予想されるので出来るだけ早くルンビニに行こう・・・そう考えていました。

カトマンズでの滞在先は、前回もお世話になった「Maryland Guest House」。実はヴァイシャリホテルの目と鼻の先にあります。オーナーはとても几帳面で綺麗好きなのでゲストハウスもとても清潔に保たれている。このゲストハウスの自慢は「24時間ホットシャワー」「日当たりと居心地の良い屋上」「面倒見のよいオーナー一家」の3つ。この屋上がなんとも素晴らしく、ここでのひなたぼっこが何とも心地よい。天気の良いればスワヤンブーも見ることができます。さらにこれから屋上に台所を増設する予定で、ゲストにも開放してくれるそうです。

次は自炊するぞ。また、屋上の水場も貸してくれるので私はそこで洗濯もします。タライに水を溜めてジャブジャブと手洗い。もちろん脱水機もないので手絞り。絞っても絞ってもしずくが落ちる。観光客向けにランドリーサービスもあるけれど、「郷に入っては郷に従え」が私の信条。できるだけネパールの、その地域の、その家の風習やルールに倣う事にしている。たかが洗濯だけど、寒い冬に冷たい水で洗濯物を手洗いすることでネパールの人の気持ちが少しわかる。便利な生活、豊かな生活へのあこがれの気持ちとか・・・。（とにかく長期で滞在をお考えの人にはお勧めのゲストハウスです。ご希望の方、オーナーに紹介致します。）ゲストハウスのオーナーは私の要望に応じて、机を（二つも！）用意しておいてくれた。部屋に案内されたあと、ろうそくを渡される。「ん？」と首をかしげているとオーナーが教えてくれた。

「月曜日と金曜日は停電だからね。」この時、雨不足の為カトマンズは計画停電を実施していたのです。このときは週2回、計5時間程の停電でしたが、途中から週17時間の停電となりました。さらに給水制限もあり一般市民は給水所にバケツや小さなポリタンクを並べて不規則の給水を待つしかありません。夜中まで待つこともあるそうです。



また、今回は記録と報告の為にブログを作成しました。夜自分のノートPCにコメントを書きため、写真を準備しておき、翌日朝食を食べ終わったあとにインターネットカフェで（1時間25Rs）コメントと写真をUPするというのが日課でした。ブログは初挑戦でしたが使ってみてとても便利でした。（いかがでした？）

メールだと複数書かなくてはいけないので時間もお金も手間もかかるのですが、ブログだと一度で済むわけです。時間とお金の節約にもなるしそれに自分の後々の記録としても便利。

私は無精者なので自分の記録だけのために日記を毎日続けるのはなかなか苦しいけれど、読んでくれている人がいると思うと何とか続けられました。（読んでくれた皆さんありがとうございます。）写真を載せるのにサイズの調整をしなければなりませんでした。加藤さんやネットカフェのお兄さんに助けをもらいながら無事クリア。時々インターネット回線が繋がらなくなるのはお愛嬌。

1月14日、ラマさんとタメルで再会しルンビニ行きについての話をしました。ちょうどこの時、悪いことにタライ地方が悪天候の為、フライトが確保出来ない状況でした。その為カトマンズからバイラワ、までは陸路で移動するしかありませんでした。その後ラマ氏がルンビニの状況とカトマンズバイラワ間の状況を確認してくれました。ラマさん曰く、ここ2,3日は状況が悪い（カトマンズポカラ間でのハイウェイに良くない噂がある）ので様子を見ましようという事になり、その後数日間、出発をいつにするか何度も電話で連絡を取り合いました。そして1月21日に出発日を決め、バスをラマ氏の手配してくれました。ただしぎりぎりまで情報を集め様子を見続けるということにしました。ところが予想外のことが起きたのです。

1月19日の早朝には電話回線が切られました。そして翌日の1月20日には外出禁止令（Curfew）が発令された。この20日には7政党合同の集会が予定されていたが、その集会を政府が阻止するために外出禁止令が発令されたのです。この日は朝起きた時、異様な雰囲気だった事を覚えています。いつもはバイクのクラクションや新聞売りのおじさんの声で目が覚めるのだがその日はなんにも聞こえない、静かすぎる朝。部屋のカーテンを開けるともう8時だというのに人の往来は全く無く、お店のシャッターは閉まったまま。

バンダかな？と思いながらオーナーの住む上階へ行くと、仕事に出かけているはずのオーナーの奥さんがいる。「今日は curfew（外出禁止）よ。絶対外には出てはいけない。食事も私達と食べましょう」と言う。車やバイクのクラクションも聞こえず、テレビやラジオの音、子供達の笑い声が聞こえるだけ。とても静かなカトマンズ。バンダとは全く違う空気が感じられた。

そして明日からルンビニ行っても大丈夫だろうか考えるのはそのことばかり。この外出禁止令により政府により政党の集会が力づくで抑えられたことになる。翌日以降どんなことが起きるか・・・この外出禁止令が出された事で一気に緊張感が増した。何が起ころうともおかしくない空気が漂っていました。ルンビニに行くべきか否か。悩みました。なにも起こらないかもしれない、でも何か起こるかもしれない。ここまで来たのに・・・悩んだ結果、夕方ラマ氏と連絡を取り、次のチャンスを待つことにしようという結論を出しました。

知りたいこと、やりたいことは沢山あるけど、先ず優先するのは「研究」ではなく「安全」のはず。ラマ氏とは11月の支援の旅の前後にぜひ実現させましょうと約束した。

ルンビニに行けなかった代わりにラマさんとは何度か会い、キルティプルのトリブヴァン大学やジャンモさんの働く Bir Hospital などを案内してくれました。また食事をしながらいろいろな話もしました。食事をしながらルンビニの話をしたことがありました。ラマさんからみてこの10年ルンビニはどう変わったと思うかという話になったとき、今まで見たことがないほどそれは熱く熱くその思いを語ってくれました。

選挙を見届けたい気もしたがこの後全国バンダ、民主化記念日などが控えていること、また市内のデモも多発していたことなどを考え悩んだ結果帰国日を早める事にしました。タイ空港のオフィスで手続きをしようとしたが2月前半選挙前のフライトはすでに満席。結局1月31日のフライトで帰国することになりました。

話は少し戻りますが、青沼さんから1月19日にJICAネパール事務所でジャーナリスト小倉清子さんの勉強会があるという連絡をいただいていたのでこの勉強会に参加してきました。参加者は15人ほどだったのでしょうか。年配の方の参加が目立ちました。JICA 田中さんが小倉さんに質問、小倉さんがその質問に答えるという形式で進行了。マオイストの目的は何なのか？マオイストが勢力拡大しているのはなぜ？2月8日の選挙はどうなるのか？マオイストは何を仕掛けて来るつもりなのか？マオイストは援助関係者をどう見ているのか？などの質問がありました。

小倉さんの話によると、毛沢東主義派（マオイスト・反政府組織）は現在ラプティ県のロルパ、ルクムを中心に活動している。ラプティ県はほぼマオイストの支配下にあるとも言われている。1990年の民主化でパンチャヤト制度が廃止され政党活動が許可されたとはいうものの、いまだ国王には多くの特権が残っており現憲法を廃止し新憲法の制定を求めています。マオイストが支配しているマガル自治区ではマオイスト自らが学校を建設しマオイストの教師により授業が行われているそうです。マオイスト同士が結婚し子供が生まれるケースも増えているそうです。またマオイストがショールやセーターなどを製造し販売するなど産業らしきものも始まりつつあるそうです。

2005年秋までは国王、政党、マオ派のパワートライアングルだったが、2005年秋にまずマオイストと共産党 UML が6ポイントの合意を成立させ、つづいて残りの政党とも12ポイントの合意を成立させた事で、国王対マオイスト+7政党という形に変化した。

マオイストは共産党による一党独裁制を目指して来たが、この共産党 UML との合意を境に他政党との連立、共和制へと譲歩してきている。（第一の目標は王政打倒！）という話でした。

またこの勉強会では最後にいざというときの情報の入手の仕方についても話がありました。電話やインターネット回線が切られた場合、FM ラジオ 90 MHz で日本大使館が情報を流す他、カトマンズ市内の主なホテルや日本食レストランで紙により情報を通知するとのことでした。この勉強会の帰りに早速タメルにある「千種」という喫茶店により確認しました。確かに「日本大使館からのお知らせ」という紙が貼ってありました。

1996年以来、マオイストによる人民戦争とそれに対する国王軍との戦いによって1万人以上の犠牲者が出ていると言われています。国軍やマオイストの殆どは若者。夫を失った妻の、父親を亡くした子供の、息子を亡くした両親の悲しみを思うと胸が苦しくなります。これから先、一体何人の犠牲を出し、人々の生活を苦しめながらネパールは果たしてどこへ向かうのでしょうか。マオイストも国王も妥協しない、この状況が続けば、さらに混迷が続けばミカの会の支援活動にも影響が出るでしょう。



最後になりましたが、ルンビニ行きのために最後の最後まで情報を集めてくれたラマさん、並びに日本からいろいろサポートしてくれた理事会の皆様、会員の皆様に心から感謝いたします。

《おまけ①ネパールの図書館》

カトマンズ市内にある図書館で私が訪れた事があるのは Kaiser Library (Kesar Library とも言う)。タメル近くの Ministry of Education の敷地内にある。膨大な数の古書が所蔵されています。壁には剥製や肖像画、古い写真や鎧などが飾られていて博物館さながら。建物も歴史を感じさせる。

来年には庭園を整備し（カフェも作らしたい）一般市民に開放するとのこと。ぜひ訪れて見てください。

もう一つは National library。そんなに大きくないが比較的新しい本や資料がそろっている。子供向けの絵本などが少しある。入り口にライフルを持った兵士が2人いる。カバンの中を調べられる。近くに国連のオフィスがあるからチェックが厳しいのかな？

《おまけ②オススメ図書》

・小倉清子「王国を揺るがした60日」

1990年の民主化運動を約1500人のインタビューから再現。今の政党政治への流れがわかります。

・八木澤高明「ネパールに生きる 揺れる王国の人々」

ネパールに生きる人々の様子が描かれています。またマオイスト兵士の生活についても書かれています。

「絵のある人生」

秋畑 正純

わたしは平成 11 年に定年を迎え、毎日が日曜日をなにもせず 1 年があっという間に過ぎました。何か趣味を持たねばと考え、絵でも描いてみようかと「絵の教室」に通い始めました。それが今から 6 年前の 3 月です。旅先でスケッチする人を見かけるたびに、自分も描けたら思い出深い旅になると思ったからです。

内田百門氏によると、音楽が好きな人と絵画が好きな人とは、生まれつきの素質ではっきりわかれている、とのこと。その分類にしたがうと、わたしは絵画派に続いているのかもしれませんが、6 年間描いてきて技量は上がり、素質もないと思っていますが、絵を描くことは好きになりました。芸術的感性の涵養を少しは高めることができたのではないかと、また、「絵が好き」という心情に勝る基礎はないのではないかと、思うようになりました。

今は毎日のように描くことを目標にしています。しばらく筆をもたないと線がぎこちなくなり、リズム感がなくなるような気がします。ちょうどボクサーが毎日シャドーボクシングをしたり、縄跳びをして練習を欠かさないと同じです。ボクシングに限らずスポーツはすべて一緒ですね。このような文章を書くのも同じこと。毎日書いていないとよい文章は書けません。今、久しぶりに文章を呻吟して書いているので、これは体のいい、言い訳でしょうか。

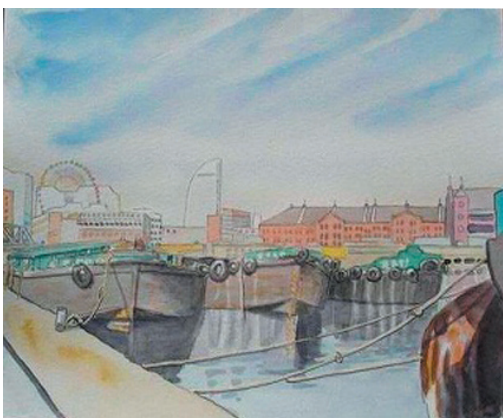


絵を描くことは健康にもよいと思っています。描きたい場所を探すのに歩き回ります。1 万歩前後は歩いていると思います。

描いているときも立ったり座ったりと忙しい。それが適度な運動になります。

指先を使っているとボケないといわれていますが、絵描きは指先が命ですからボケてはいられません。描き始めるとどのような絵にするか脳の全体を使いますので、認知症の予防にもなります。画家に長生きが多いのもうなづけます。梅原龍三郎は 98 歳まで生きましたし、奥村土牛は 102 歳でした。ピカソが亡くなったのは 92 歳で、画家としては若く、晩年まで旺盛な創作活動を続けていました。いまでも 90 歳を過ぎた現役画家はいくらでもいます。

わたしは描いた絵を毎日ホームページ（HP）に掲載しています。掲載した作品は自分で描いたものですから優劣をつけることができます。 ⇨



「横浜フェスタ」

加藤 雅子

昨年 1 月北海道の祖母が亡くなった。お正月の電話の時には変わりないと聞いていたので、こんな事はテレビドラマのように突然やってくるものなのだと心の中で思ってしまった。

しかし、驚きと悲しい気持ちの他に、久しぶりに北海道に帰れることと、前年から緊張した中での仕事に疲れを感じていたののでしっかりと理由ありで仕事を休むことが嬉しかった。両親、妹弟、親戚など懐かしい顔に会い心の凝りがほぐれ、北海道の雄大な景色を見て、気持ちが落ち着き、東京の職場のストレスを少し忘れて帰ってきた。

しかし、しかしである。一月末で仕事を辞めてしまった。

二月、三月はやめて良かったのかと自問し、間違えていたかもと考えてみたり、、、そんな時横浜フェスタの実行委員にミカの会の代表として参加する役を引き受けた。

何か新しいことをしたいと思い、すごく軽い気持ちで参加した。これが結構大変だった。その日担当が決まり、毎月最低二回のミーティングに横浜まで出かけた。同じ担当のメンバーは社会人 2 名、大学生 2 名、おばさん 2 名である。私以外は皆前年のフェスタにもボランティアとして参加していた人達だった。ミーティングの回を重ねるに従って、お互いの性格も分かり、空気も和やかになってきた。我々チームの担当は、会場の装飾や、出展団体に対しての配置やすべてのこと、フェアトレードファッションショーと NGO 広報ショーの企画、運営だった。若い人が企画書を作成し、企業と交渉して年配のボランティアの方がそれをサポートするという感じだった。

当日は朝 6 時 30 分集合でハードな 2 日間であったが、入場者が目標の 25000 人を超え大成功に終わった。

横浜フェスタでは多くの優秀な若者がボランティアとして参加しているのを見て、是非ミカの会も若い後継者を育てていかなければいけないと強く感じた。

最後に NGO 広報ショーでミカの会が優勝したことは最高に嬉しい私へのプレゼントだった。



わたしがうまくできたと思うものと、「これがいい」といわれるものは、人それぞれ違うなと思います。展覧会に行っても、いいなと思う絵が売れておらず、とりにある「まだまだ」と思う絵が売れていたりします。

評価は人それぞれ違います。ですから大勢の人が、それぞれ相手を見つけて結婚できるんですね。HP には、なにしろ毎日のことなので、味噌も糞も出品しますが、展覧会には自分で傑作だと思った作品を出品します。そして作品に関する毀誉褒貶は関知しません。

もっと若いときから絵を描いていればよかったと後悔していますが、絵はわたしにとって残り少なくなってきた人生の生きていくための伴侶となっています。いまでは絵を描くことは、描かないで過ごした人生にくらべて、どんなに充実しているかしないと確信しています。

事務局・会計からの報告

平成 17 年度イベント・バザー報告

当会主催のイベント「夏の和太鼓チャリティコンサート」(17.8/20)の他に12のイベントにバザー出店をさせて戴き、会にとりまして貴重な成果を上げさせて頂きました。ご協力を戴いた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

支援金・募金を戴いた方のお名前

敬称略

一般寄付・募金(会員も含む)

(17年4月～18年1月)

片岡 孟 梶 和愛 片岡 直文 今村歯科医院
大谷 和代 永松 一従 新川 恒夫 大塚 武晴
望月 智江 大部 正健 片岡 貞 井上 恭一
佐々 木富子 大崎 雅史 大澤 嬉子 植草 智子
築城 美津子 工藤 せつ子 小田桐 玲子 和田 邦子
PC教室一同 小林 公子 井上 義高・啓子 谷 礼子
吉田 英亮 工藤 秀久・葛子 信田 亨 山内 劉子
鈴木 修子 江森 陽弘 山口 美知子 木口 容子
岡山 佳恵 齋藤 謹也 齋藤 美江子 永山 宋典
神沢 智雄 米山 方雄 鶴塚 由紀子(株)ナカオ
チャリティボウリング役員 国際ソロプチミスト町田一さつき
市村 恵美子 小原 由紀子 加藤 雅子 渡瀬 美津子
小林 公子 福田 敦 山下 繁憲 秋畑 正純 写団まちだ
その他匿名希望

「パキスタン北部災害救援金」の報告

17年夏号の会報でパキスタン北部地震災害救援金を募集致しましたところ、一ヶ月足らずという短期間だったにも拘わらず¥41,000が集まりました。日本赤十字社に災害救援金として送金させて頂きました。ご協力有難う御座いました。寄付を戴いた方のお名前
片岡 孟・直文 大谷 安宏 高橋 真貴 青沼 義信
吉田 英亮

バザー品及びネパール支援物品を戴いた方のお名前

個人(会員以外)

(株)ナカオ 磯村美津子 大和田 淑子 川島 みつる
丸山 ルミ子 星町 和子 立川 容子 宮野 好子
(株)広栄薬局 渡辺 正子 八丈 紀子 田井 万里子
梅本 望 丸山ルリ子 渡瀬美津子 水島 克典
小倉 陽子 鈴木 亨子 日野 由美子 橋本インドア
成瀬のテニスクラブ

主な企業からの支援品

(株)リコー 測定器 計測器等
(株)リコーロジステックス OA 機器、消耗品等
(株)加藤石材店・加藤養運堂 倉庫、備品管理

いつも貴重なご支援を賜り本当に有難う御座います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成 17 年度新入会員のお名前

「正会員」

市川 道子 栗原 莞爾 田中 次恵 伊藤 博尊・幸恵
秋畑 正純 中牟田 富美子 安藤 満 大塚 正男
小泉 光 高橋 宏明 三橋 良二 市村 梨恵
横山 順一 牧野 仁 森山 邦男

「賛助会員」

山内 英司 永松 一従 和田 寧人

※ 新しいお仲間が沢山増えました。皆様どうぞ宜しく。色んなイベントや活動に参加して楽しく歩んで参りましょう。

第10次『ネパール教育支援の旅』参加者募集のお知らせ

第9次支援の旅が終わり「夢の記」が発行されたばかりですが、諸般の事情により下記のように第10次ネパール教育支援の旅を計画いたしました。

今年はミカの会創立10周年また日ネ国交樹立50周年であり且つカトマンドゥ日本語学院創立41周年(昨年40周年が政情不安により延期)に当たり、ルンビニでの記念イベント実施、またカトマンドゥでのジャパンウィーク in ネパール、日本語学院主催イベント(下記)に参加の予定です。ネパール・ミカの会が着実に歩んできた10年の成果を確認するとともに、これからの活動に向けて、現地の人々と交流し、ヒマラヤの大自然を楽しみませんか。(今の所、現地の政情は相変わらず不安定で、変更を余儀なくされることもあります)

第10次『ネパール教育支援の旅』案

期間: 2006年11月13日(月) ～ 11月23日(木)
11日間

費用: 一人当たり 概算: 230,000円

内訳: 成田⇄バンコック⇄カトマンドゥ 130,000円

現地旅費・滞在費 100,000円

ビザ取得・海外傷害保険代含まず

申し込み期限: 平成18年3月25日(土)

事務局まで 大谷: TEL 726-1762
和田: TEL 791-0148

カトマンドゥ日本語学院41周年記念イベント日程

11/18 記念式典、パーティ
11/19 日本語学院学生の弁論大会、ナガルコットで交流会
11/20 チャングナラヤン寺院(世界遺産に登録)までヒマラヤを見ながらハイキング
(歩かない方にはチャングナラヤン寺院まで車を手配)

【編集後記】

選挙を終えたネパールですが、あいかわらず治安の回復はありません。佐藤会員のルンビニ調査も断念することになってしまいました。国王、政党、マオイストの絡んだ糸は元に戻る気配すらありません。私たちの支援するタンセンも大規模なマオイストの攻撃を受けました。10周年を迎えるミカの会の記念事業など、現地での活動が大幅に制限される可能性も大です。町田市市長、市議会選挙が行われました。ミカの会会員の齋藤祐善さんと大塚信彰さんが見事市議会議員に当選されました。心よりお喜びするとともに、これからの活躍に期待致します。佐藤会員がネパール滞在中事務局と連絡を取り合いました。今回はブログと掲示板を利用しての連絡でしたが、画像を見ることが出来、ほぼリアルタイムにコミュニケーションがとれました。ネパール国内での携帯電話の利用などは、これからの支援にも有効な手段となるでしょう。S.K